

---

# 恋愛上等

零雅

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

恋愛上等

### 【著者名】

零雅

NZ74G

### 【作者名】

### 【あらすじ】

春。恋の季節。それは、恋したり恋されたり…。人によつては色々だけど、きっと彼氏も色々。それは思いもよらないような相手かもしれない。まさに恋愛上等。

春。

それは私の恋する季節。

いや、場合によつては恋される季節。

それは案外「くみじかにあつたりする。

それも全く予想もしないような相手かもしだれない。

いつも恋つてありなのかな？

まさに恋愛上等。

いつもの通学路。

私の気分は春満開。

なんてつたつて今日から新学期。

ぴかぴかの中学生。1年生。

嫌でもテンションが上がる。

ちらほらと見える新入生の姿も

一つ上の学年の先輩も

今日は心なしか輝いて見える。

今年も来たんだ。恋の季節が！！

みんなが何考えてるかは分からぬけど私の頭の中はそれでこいつぱい。

私はまだ恋をしたことが無い。

小さい頃がどうだったかは分からぬけど

少なくとも私の記憶では初恋もまだ。

だから、つてわけじゃないけど

春は好き。

こんな私にも恋が出来るんじやないかって気がするから。

まあ、こんな事を考へて何年田になるんだつてはなしなんだけど。

なんとなく気分はわくわく。

今年も桜は満開で綺麗だし

何か起こうつとうな気がする。

去年と変わらないローファーをはいて私は坂を上っていた。

ふわふわとした気分で通学バックをクルクルと振り回す。

その時。

( サア )

「えつ！？

すぐ隣を通った自転車。

…に、通学バックを持って行かれた。

ひつかかったのかわざと引っ掛けたのかは分からぬけど…。

とりあえず持つて行かれた！？

下り坂だけに自転車は思うよりも速いスピードで下っていく。

いやああああ…！もしかして泥棒…？

とりあえず全力疾走で坂を下るけど全く追いつけない。

その内息切れまでしてきた。

坂の下のここの学校は違うけど一人の少年とたぶん新入生の女の子。

女の子が自転車なんかとめられるわけないしなあ…。

もう一人の男子の方もちょっと止められそうにない。

でも…言わないよりはまし?

走っていた足を止めて思いつきつ叫ぶ。

「誰かその自転車止めてええええ…！」

新入生の方はその声に気づいてオロオロしている。

男子の方はどこか…気づいてないのかな?

全く変わらない姿勢でイヤホンをつけたまま音楽を聴いている。

…てか、逆にひかれたりしないよね?

自転車は真っ直ぐ真ん中を通りてる。

そしてその男子も…。

バックルルルじやないよおーーー!

そしてつっここの男子の3メートル近くまで来る。

「どうだ…！」

自転車にのった泥棒が勢い良く叫ぶ。

それでも男子の方は進路を変えようとしない。

ひ、ひかれる…！

…と、思つたら…！

その男子はヒクンと身を翻して華麗に自転車をよける。

一瞬何が起つたのかわからないくらいこの早業。

そして、私が固まっていた数秒。

自転車はいつの間にか通り過ぎてこる。

よかつたあ…。

つて、よくないよ…！

私のバツク…！

「これだろ？」

「え？」

いきなりさしだされたバツク。

それを差し出したのは紛れもなく私のバックだった。

そして、紛れもなく私のバックだった。

な、なんでっ！？

「 もうあけた時に君のだと思つてぱくつとこたんだ」

平然と無表情で言ひ。

「 うーん…、自転車よけたのを見るだけで精一杯だったの。」

いつの間にかバックまで取り返しといってくれたなんて。

てか、いつたい何者！？

「 ああ、俺は相川。相川 拓海。

空手やつてんだ」

空手つてそんなにすごいもんなの？

「 つか、一様全国制覇してるから。

あのくじこはよかひわるよ」

ぜ、全国制覇あああ！？

全国で一番つてわけ？？

それってメチャクチャ強いってことじゃん！

でも、あたしのだってなんで知つてたんだろう？

「そりゃ知つてるよ。ずっと見てたから」

みてた？あたしを？

「毎朝見てたし。俺、お前のこと好きだから」

「…？？」

好き？あたしのことiga？

なつなんでええ！！？

「別にいいだろ？俺が誰好きだつて

べ、別にいいけど…。

でも、告白された私はどうすればいいの？

付き合うとか？

「お前は好きな人いる？」  
告白なんてされたのはじめてだし…。

や、別にいないけど…。

「じゃあ、俺と付き合つ」と決定。

これからようしへつ……」

……？

頭がハテナでいっぱい。

つまり私は…

これからこつと付き合つて事ある！？

私まだ何も言ってないし…！

「別に好きな奴いらないんだろ？じゃあ問題ないだろ」

ある。多いにある。

だいたい私、君の事全くしならいし。

「これから知つてけばいいだろ？」

それとも、俺のこと嫌い？

綺麗な透き通つた瞳に見据えられ。

あ、良く見ると結構カッコ良いんだ…。

あたしは気づかないしふり返事をしていた。

「…付き合ひつ

空手の全国制覇者が彼氏なんて…。

まさに恋愛上等って訳ね。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8974g/>

---

恋愛上等

2010年11月19日08時20分発行